

造園技術の授業では現在、樹木の病気について学習をしています。

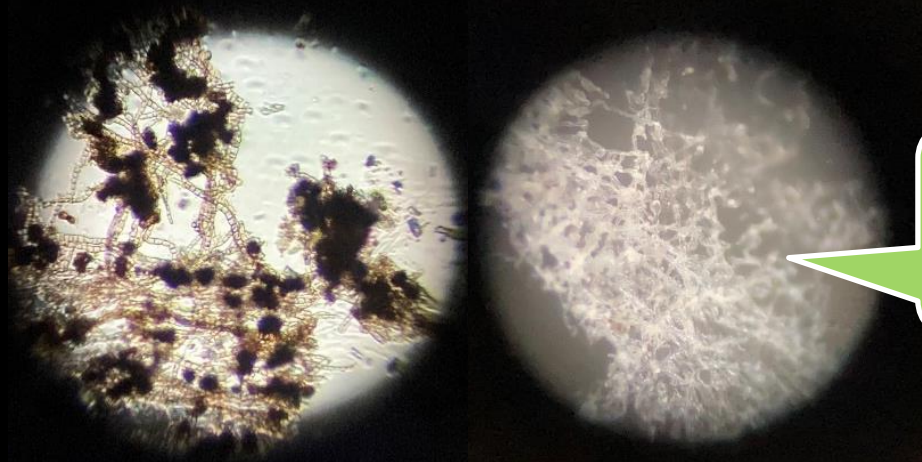
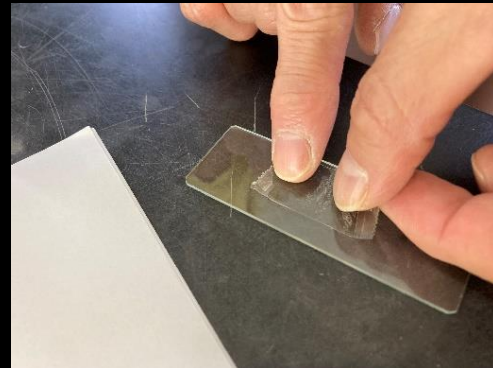
樹木の病気は様々ありますが、伝染病の原因となる生物、いわゆる病原体の種類は糸状菌(真菌)・細菌・ウイルスに大別されます。

その中でも、今回は糸状菌に注目しました!!

菌種によって大きさは著しく異なりますが、2~10 μ mの直径のものが多くみられるため、顕微鏡レベルで観察することができます。

そこで、前時の授業で病斑のある樹木の葉を採取しました。校内にある樹木の中でもどんな環境で病気がみられるのか…そんなことを考えながら散策(;^ω^)

採取した葉からセロハンテープを用いて糸状菌を付着させ、スライドガラスに貼り付けて観察を行いました。



糸状菌!
そう呼ばれる意味が
よくわかりますね!!



カビという存在は知っていても、顕微鏡レベルで観察することは初めてだったようで生徒の皆さんも夢中になって観察しています(*´艸`)

この経験から学びが深まると良いですね♪